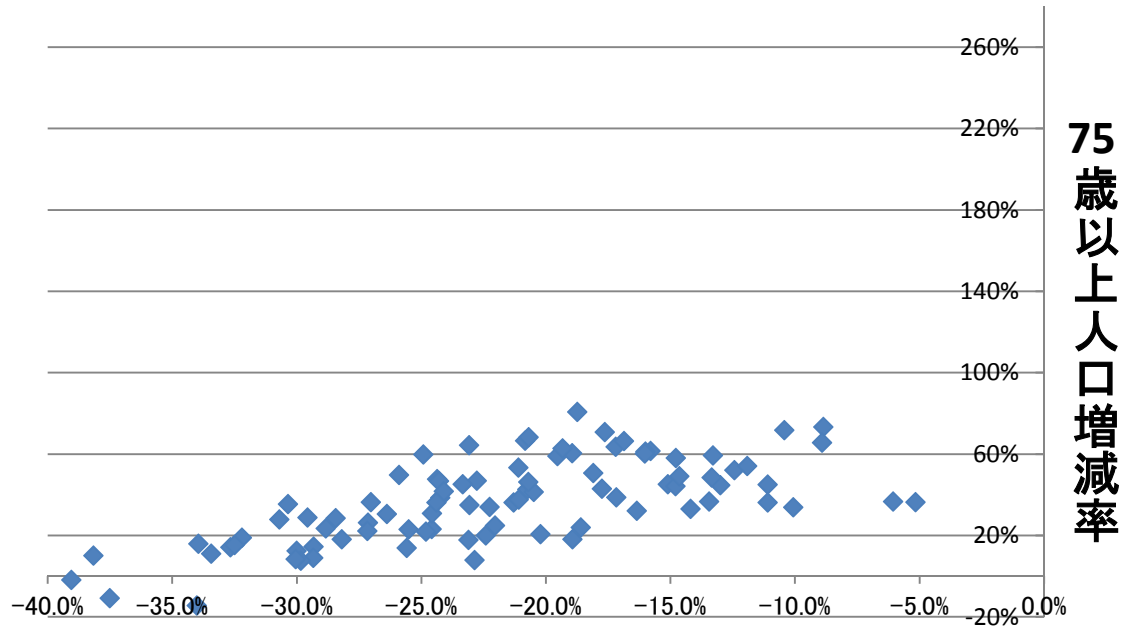
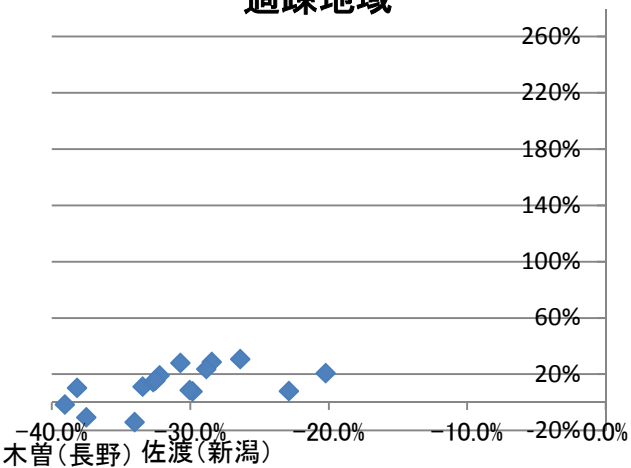


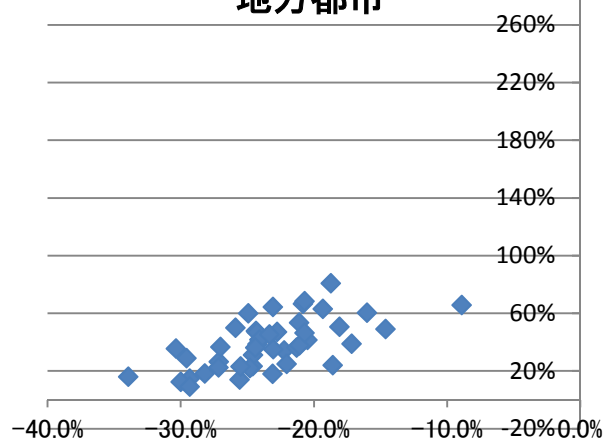
管内の二次医療圏別2015年→2035年人口増減率



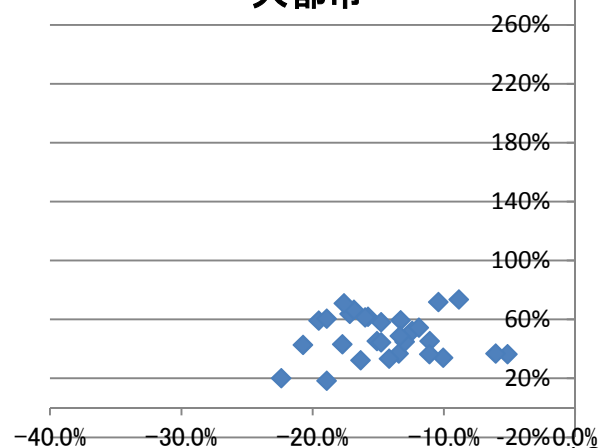
過疎地域



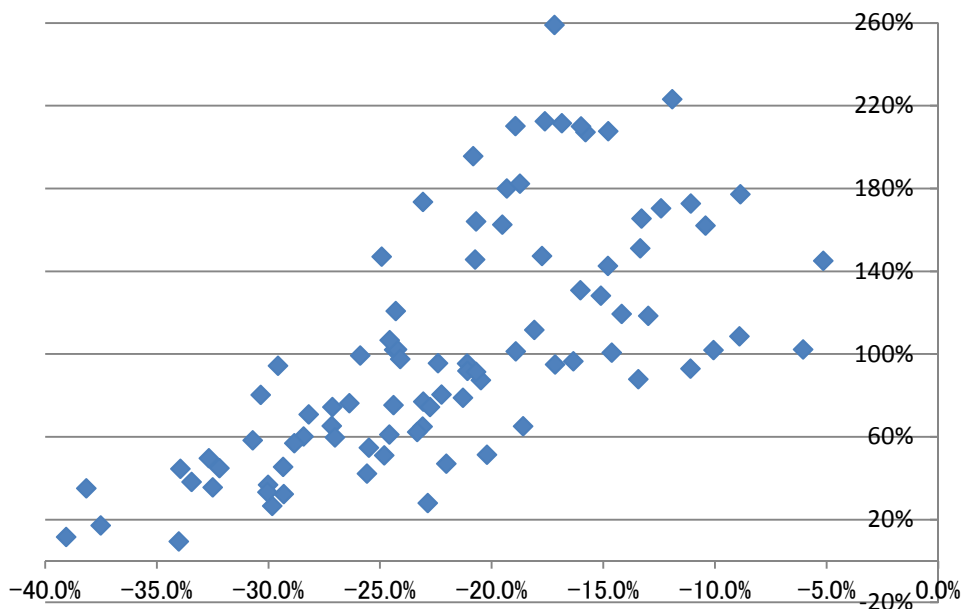
地方都市



大都市



管内の二次医療圏別2015年→2035年人口増減率

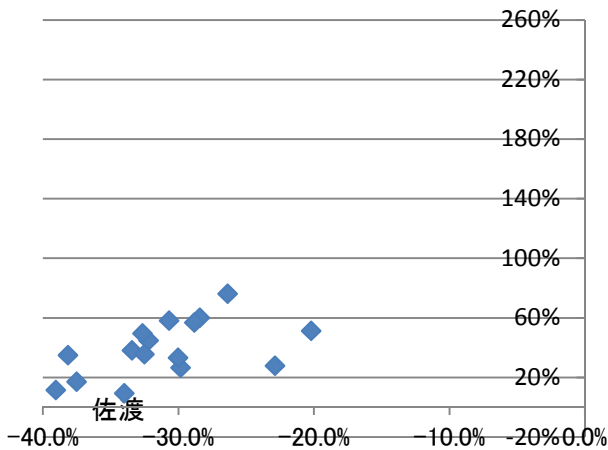


85歳以上人口増減率

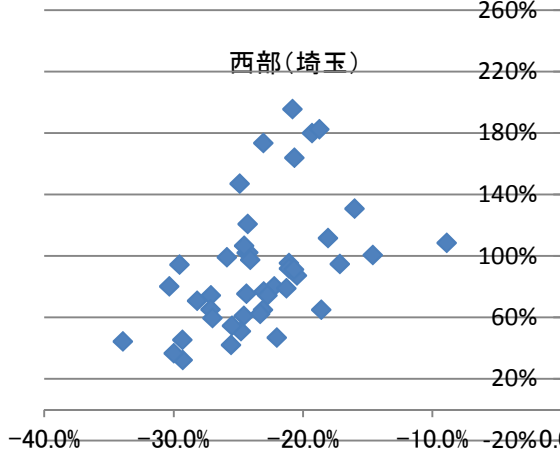
0-64歳人口減少率



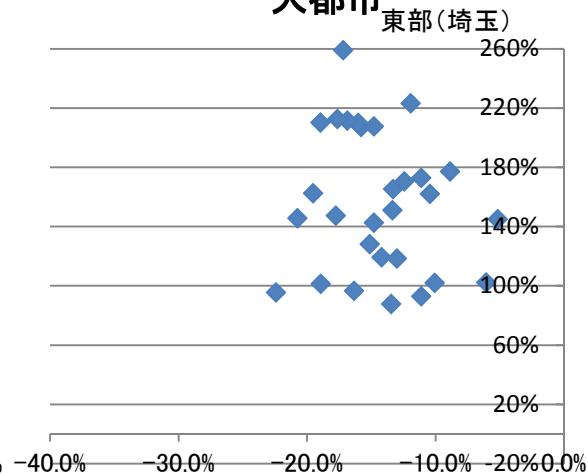
過疎地域



地方都市

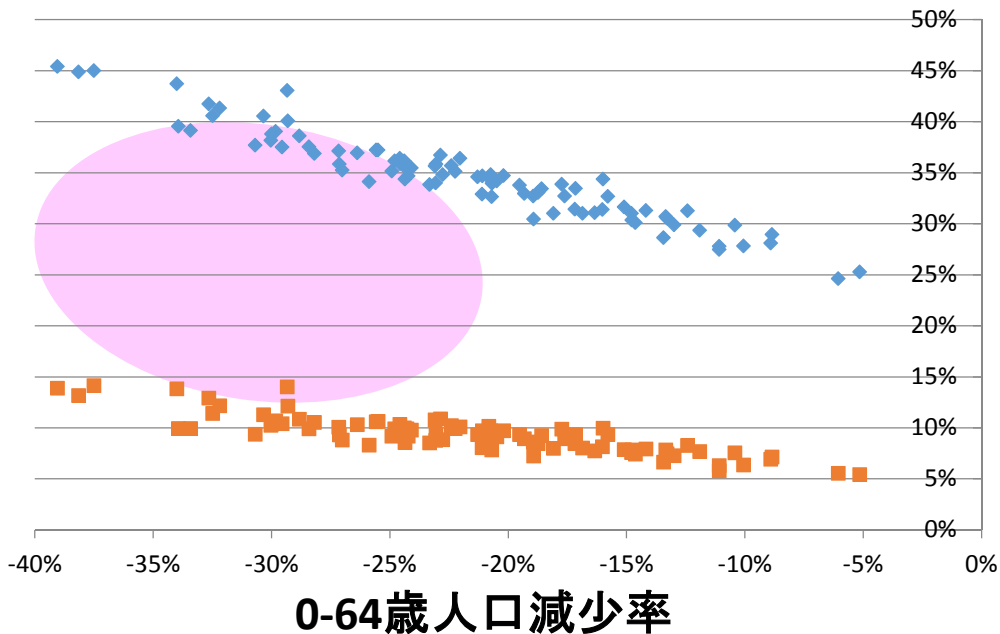


大都市



管内の二次医療圏別2015年→2035年人口減少率と高齢化率

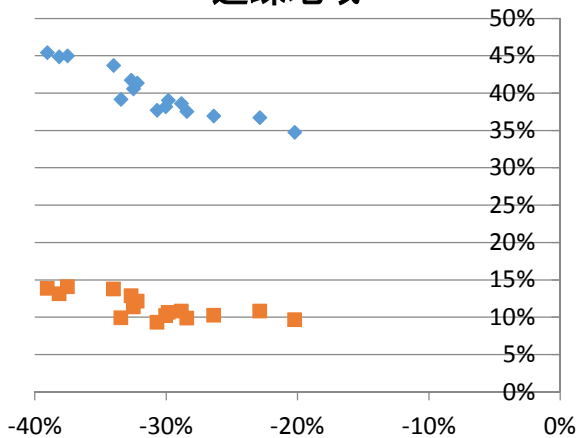
◆ 65歳以上高齢化率 ■ 85歳以上高齢化率



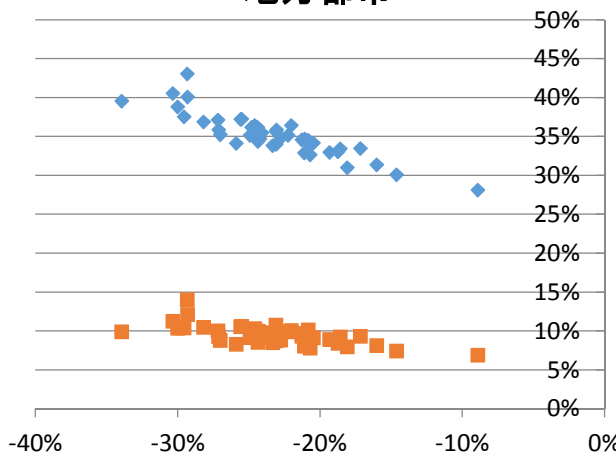
2015年	65歳以上高齢化率	25.2%
	85歳以上高齢化率	3.5%
2035年	65歳以上高齢化率	32.1%
	85歳以上高齢化率	8.4%



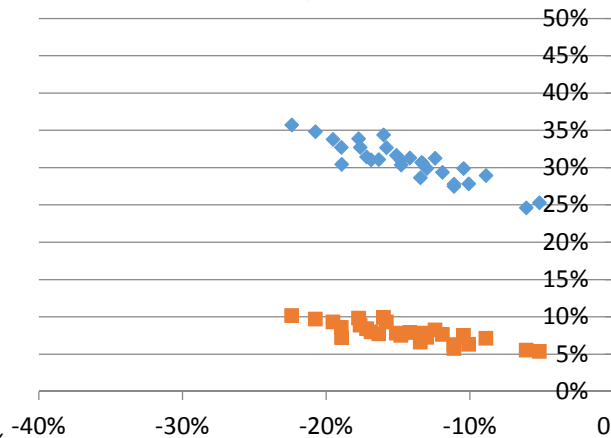
過疎地域



地方都市



大都市



ま と め

- 大都市では、若年人口の減少は他の地域に比較すると小さいが、高齢者の大幅増加が見込まれることに伴う医療資源、介護資源の大幅な需要増大が課題ではないか。
特に要介護認定率が高くなる85歳以上の高齢者人口が20年間で3倍以上となる二次医療圏が8医療圏ある。
- 過疎地域では、75歳以上の高齢者人口の伸びは緩やかで、逆に減少する二次医療圏もあるが、85歳以上の高齢者人口の増加率は平均で4割以上あり、若年人口が大幅に減少する中でいかに介護サービスの担い手を確保するかが課題ではないか。
- 地方都市では、若年者と前期高齢者の減少率は過疎地域と同じ傾向であるが、85歳以上の高齢者人口は大都市の傾向に近くほぼ2倍となる。
地方都市では過疎地域の抱える担い手の減少と大都市の抱える医療資源、介護資源の大幅な需要増大との二つの課題を抱えるのではないか。
- 以上、地域により人口動態が大きく異なるため、2025年のみならず、2035年も見据えて医療介護基盤の整備を検討する必要があるのではないか。
- 一方、高齢化率は2035年には30%を超えるが、85歳以上の高齢化率で見れば8%である。介護予防を進めて健康寿命を伸ばし、高齢者にも可能な限り地域を支える担い手となっていていただく施策を進めることが重要なのではないか。